

会 議 録

会議の名称	第2回行田市日本遺産推進協議会
開催日時	平成29年 7月31日(月) 開会：午後3時00分 ・閉会：午後5時00分
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者(委員)氏名	工藤正司会長、小川雅以委員、山本栄治委員(代理 坂根氏)、栗原喜文委員、阿久津彰男委員、中村洋子委員、坂本昌己委員、小森谷賢一委員、関義則委員、吉田正委員
欠席者(委員)氏名	山崎功一委員、劔持和夫委員、持田朋春委員、中村真一委員
出席者(オブザーバー)氏名	行田商工会議所青年部：丸山靖雄副会長 行田青年会議所：佐野友昭理事長 ものづくり大学：宮本伸子参事・教務・情報課長 NPO 法人魅力創造倶楽部：町田光理事
事務局	総合政策部：樋口部長 環境経済部：小巻部長 生涯学習部：吉田部長 企画政策課：岩田課長、川上主幹、横倉主査、沼尻主事 商工観光課：森原課長 都市計画課：五十幡課長 学校教育課：佐藤課長 文化財保護課：中島課長 郷土博物館：鈴木副館長
講師	東洋大学大学院国際観光学部客員教授 丁野 朗 氏
会議内容	(1)平成29年度日本遺産魅力発信推進事業について
会議資料	(資料名・概要等) ・次第 ・出席者名簿 ・事例に学ぶ日本遺産の活用とその手法 ・資料1 平成29年度事業の概要 ・資料2 日本遺産に関するPRについて
その他必要事項	傍聴者5名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
丁野氏	<p>1. 開 会</p> <p>2. 会長あいさつ ・工藤会長あいさつ</p> <p>3. 講 話 『事例に学ぶ 日本遺産の活用とその手法 ～地域の「光」をどう観光客に伝えるか～』 <レジュメに基づき講話></p>
事務局	<p>4. 議 事 (1)平成29年度日本遺産魅力発信推進事業について <資料1に基づき説明></p>
佐野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、青年会議所では市内の子供たちを対象に足袋の体験イベント（タグラグビー）を実施する予定である。 ・先ほどの講話のなかで「地域プライド」というワードが出てきたが、この「地域プライド」を高めるために何をすべきか、丁野氏より助言をいただきたい。
丁野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを対象とした事業の実施は、大変良い。 ・先月、石垣島の全中学3年生に向けたシンポジウムを開催した。“石垣の環境と観光”をテーマとしたが、生徒たちは大人が思っている以上に良く考えていることが窺えた。 ・行田市の中学生在が、行田についてどのような思いを持っているか大変興味深い。そのような取組みを青年会議所でやってみてはどうか。
佐野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの育成に関わる事業については、今後も責任を持ってやっていきたい。 ・事業について、郷土博物館の展示の充実として6ヶ国語音声ガイドの導入があったが、今後もインバウンド対策を推進する上で、公共交通機関やバス、タクシー会社と連携して、海外からの観光客への多言語の案内ができれば良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの子供たちを対象とした事業について、市では、教育委員会にて昨年度に足袋の副読本を作成し、今年度より小学3年生の社会科の授業で、足袋について学ぶ時間を設けている。また、その授業の一環でマイ足袋作成体験事業を実施している。 ・さらに、中京大学との連携により、本年9月から東小学校をモデル校とし、全児童に足袋を1年間履いてもらい、その結果を実証する事業を開始する予定である。 ・今後も、市と教育委員会が連携し、子供たちの郷土愛や郷土理解の向上に努めてまいりたい。

栗原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生の部活動の一環として、足袋愛好会などが自然と発足されるくらいに、小学生のころから足袋への愛着を深められる活動ができれば良い。 ・日本遺産の構成資産である足袋蔵のほとんどが、内観は非公開となっている。公開できるようにしたい。 ・また、行田の足袋蔵は点在している上に、建物が奥まっている。パンフレットを作成するのであれば、それを巡りやすいものが良い。 ・ストーリーにもあるように、昔は町なかを歩くとカタカタとミシンの音が響いていた。時報の代わりなどで1日3回程度ミシンの音を流すなど、昔の情景が浮かぶような演出ができれば良い。
丁野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・過度な演出は逆効果になり得るが、暮らしの中に音や香りなど、シンボリックな演出ができれば非常に良いと思う。
小川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルプロモーション事業のBS番組放映動画制作について、市民の意向を汲んだものになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業は、足袋蔵のみならず行田のまちの魅力を広く市内外に向け力強く発信するものである。動画の制作にあたっては、二ヶ国語を搭載しクオリティの高い映像とするため、関係各課も含め、専門の委託業者と随時調整していく。
阿久津委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産認定を機に足袋関連事業が重視されると思うが、これまで水と緑が豊かなまちとして進めてきた事業をないがしろにすることなく、一体的に進めていければ良い。
丸山氏	<ul style="list-style-type: none"> ・栗原委員からもご意見があったとおり、行田の足袋蔵は裏通りに点在しているのが特徴となっている。観光ガイドが常駐できれば良いがそうもいかない。観光客が来られたのに何も無いというのはもったいないので、説明や案内版などにデジタルサイネイジやARを活用できれば良いと思う。
丁野氏	<ul style="list-style-type: none"> ・事業について、文化庁の補助事業にて実施する事業ではあるが、今後、当協議会が自走していくため、その他の補助金や民間事業者との連携などにより、更なる推進体制が構築できれば良いと思う。
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・丁野氏や委員、オブザーバーの皆様よりいただいたご意見等については、今後活かしてまいりたい。
事務局	<p>5. その他</p> <p>○日本遺産サミット等の報告について <資料2に基づき説明></p>

○ワークショップの実施について

- ・ 9月中下旬頃から、日本遺産を活かしたまちづくりの実施に向け、人材育成、発掘も見据えながら継続的に実施していく。
- ・ 日程等、詳細が決定次第、委員の皆様にも通知させていただく。

○今後の予定について

- ・ 第3回協議会については、11月～12月を予定しており、詳細が決定次第、追ってご連絡させていただく。

< 閉 会 >